市内における住宅用火災警報器の奏功事例

発生時間	作動した警報器の設置場所	概　　要
７時	寝室（煙式）	居住者が、就寝中に住宅用火災警報器の警報音に気がつき、３階の自室から２階の居間に降りたところ、煙が充満しているのを発見しました。家族に伝えたところ、119番通報するように言われたため、119番通報した後、全員避難しました。
12時	台所（煙式）	居住者が、片手鍋をガスコンロにかけたまま、庭で作業をしていました。時間経過とともに、鍋が空焚きとなり煙が発生し、台所に設置されていた住宅用火災警報器が鳴動しました。本人が警報音に気がつき、ガスコンロの火を止めたため火災には至りませんでした。
8時	不明	居住者が自宅３階で就寝中に、「火事です」という住宅用火災警報器の音声で目を覚ましました。寝室のドアを開けたところ煙が充満していたため、一緒に就寝していた家族を連れて屋外へ避難後、119番通報を実施しました。
1時	寝室（煙式）	居住者が自室で喫煙後、灰皿で消したつもりで寝込んでしまいました。残っていた火種が、時間経過とともに灰皿内の他の吸殻に着火しました。近隣の住民が住宅用火災警報器の鳴動と焦げた臭いに気がついたため、119番通報をしました。
19時	不明	共同住宅の居住者（２人）が、下階の部屋で鳴動している住宅用火災警報器の警報音に気がついたため、警報音が鳴動している部屋を訪ねました。玄関を開けると室内に煙が充満していたため、１人が119番通報を行い、もう１人が家人を外へ避難させました。
5時	不明	居住者が、洗面所に置いた電気ストーブの電源を入れトイレに入ったところ、住宅用火災警報器が鳴動しました。ドアを開けると、洗面所に置いていた衣類から炎が上がっていたため、すぐに家族に知らせた後、一緒に初期消火を行いました。
2時	寝室（煙式）	居住者が就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、居間に重ねて敷いていた座布団と長座布団から煙が出ているのを発見しました。すぐに座布団と長座布団をベランダに出し、水を数回かけて初期消火に成功しました。
1時	寝室（煙式）	居住者が１階でテレビを観ていたところ、２階の住宅用火災警報器が鳴動していることに気がつきました。２階へ行き寝室の扉を開けると、天井が燃えているのを発見しました。そのため、両隣の部屋で寝ている家族（２人）を起こし、１人が119番通報、もう１人が初期消火を実施しました。
4時	寝室（煙式）	居住者が居室内でたばこを吸った後、灰皿に溜まった吸殻を台所に置いてある合成樹脂製のごみ箱へそのまま捨てました。そのため、たばこの残り火がごみに着火し、ごみ箱から出火しました。警報音と何かが燃えるにおいに気がついた本人が、水をかけて消火に成功しました。

0時	不明	就寝中であった居住者が住宅用火災警報器の音で目を覚まし、洗面室から煙が出ていることに気がつきました。洗面室をのぞくと炎が立ち上がっていたため、自宅の消火器で初期消火を実施しました。
9時	寝室（煙式）	居住者が、布団を乾燥させるため、布団乾燥機とヘアードライヤーのスイッチをいれたまま、その場を離れていました。時間経過とともに、ドライヤーが発熱し出火して布団に着火しました。住宅用火災警報器の警報音に気づいた家人が水バケツと消火器を使って初期消火に成功しました。
1時	寝室（煙式）	外出先から帰宅した居住者は、電気ストーブを点けたまま寝てしまいました。住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、布団が電気ストーブに接触して赤くなり、室内に煙が漂っていました。すぐに布団をベランダに出して初期消火を実施しました。
6時	居室（煙式）	居住者が、仏壇のローソクに火を点けたままその場を離れたところ、付近の可燃物に着火しました。別室で就寝中だった家族が住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、水道水を使って初期消火に成功しました。
15時	居室（煙式）	自宅１階にいた居住者が、２階の住宅用火災警報器が鳴動していることに気がつきました。２階へ行ってみると和室の天井の一部が燃えているのを発見しました。そのため、通行人に119番通報を依頼し、本人は初期消火を実施しました。
14時	階段（煙式）	居住者が、階段の腰壁に布団を干していましたが、スポットライトに接触していることに気がつかず、ライトのスイッチを入れました。そのため、布団が加熱され煙が発生し、住宅用火災警報器が鳴動しました。警報音に気がつき、洗面器を使って水をかけ、火災には至りませんでした。